

# 北熊本Bが6度目の全国制覇 女子個人も岩木選手が4連覇

## 北熊本自衛隊監督 神之田 順秀

第36回全国自衛隊剣道大会は、2月26・27日の両日、自衛隊体育学校で団体・個人戦が行われた。

女子個人戦は、岩木真美選手が活躍し鍋山選手(古河)を延長戦の末破り4連覇を果たした。



【北熊本自衛隊Bチーム】

団体戦は北熊本AとBチームが5回戦まで進出。Bチームはその後決勝へ駒を進め国分Aと九州同士の対戦となった。

昨年全九州大会で苦戦した若い強豪チームで技を出せ、得意技で攻めよ、しっかり戦うよと激励を入れた。

試合は国分の流れで展開、先鋒が負けたものの、次鋒が踏ん張り、中堅・副将が2本勝ちで大将戦を待たず3対1で優勝。昨年に続き2連覇・6度目の

全国制覇を決めた。今回は昨年のメンバー4人を欠く中で、チームワーク・団結力を中心にチームを作ってきた。

今年も熊本県警・熊本福岡刑務所、各剣道部に胸を借り稽古をつけていただきありがとうございます。

今回の勝因は、個々の必勝への執念・団結心、一本に対する集中力が発揮できたことと職場の皆様のご理解・ご支援のおかげだと深く感謝しています。

部員一同、この優勝に驕ることなく稽古に励み努力精進していきたくと思っています。

# 我が町の交剣知愛

## その3 “武蔵・小次郎剣道大会”

熊本市剣道連盟 理事長 嶽下 武紀



【小倉 小次郎軍】

武蔵・小次郎剣道大会は、厳流島で開かれた剣豪宮本武蔵と佐々木小次郎を顕彰し、熊本市と小倉市の友好親善を図る目的で、昭和28年に発足

したと言われています。昭和28年と言えは、第二次世界大戦の傷跡が未だ癒えず、混乱期の真つ只中であつて日本はその復興に向けて国民が一体となつて努力している最中でありました。

そのような中、当時の熊本市の石坂市長と小倉市の林市長が剣道を通じて両市の友好を深めようとの趣旨で、本大会が発足(開催)されたと言われています。

以来、今日まで幾多の変遷を経ながら発足当時の意義を大切に、両市剣道連盟が管轄としてその発展に努力を重ね、これまで50有余年百十一年の試合を行ってきました。

この大会はこれまで両市が毎年実施しているお城祭り行事の1環として熊本と小倉で春と秋に1回ずつ実施しておりますが、財政面等の理由で



【熊本城をバックに熱戦が展開】

数年前から熊本と小倉城内で、それぞれ特設会場を設置し年一回、持ち回りで交互に親善試合を行っております。

屋外での試合であるため会場にシートを敷いたり、広場をきれいに掃き清めて足袋を着用し、ケガの防止にも努めて盛会に行っております。

本大会の前日は開催地のそれぞれの武道館で合同稽古会を行い、夕方からの情報交換会では互いについて話し合います。

当日の試合は両軍選手を一般男性(20歳代)60歳代までの三段〜七段の選手8名と、若手の女性2名、計10名での

# 西山杯争奪剣道大会が盛大に開催!



が参加し盛大に開催された。チーム編成は年齢別の3人制で熱戦を繰り広げた。

なお、前日は審判団と選手有志との合同稽古会も行われ選手間の親睦も深められた。

本大会は宇城市剣連、前会長西山 弘範士(県剣連顧問)が戦後の剣道復活から今日まで60数年間、「剣道一筋」県剣連界の発展と併せて後進の指導に

第1回、西山 弘杯争奪剣道大会はこの3月、松島町総合センターアロムに一般フリー(68チーム)、40歳以上のシニア(25チーム)、58歳以上の年齢合計180歳以上のグラントニア(15チーム)の3部門に108チーム

西山先生は「私の剣道は『終わらな』生涯剣道であり、残念ながらこれまで一緒に頑張ってきた同志もすでに他界されておりますが、約半世紀にわたる指導の中で、少年剣道の盛んなわが町から立派に成長した剣士たちがあらゆる分野で活躍されていることが私の大きな喜びであり、今後も大いに期待しております。これからもさらに剣道を究めながら、健康の続く限り老体にムチ打って少年剣道の育成等に頑張りたい。

# 渡邊(学園大)・東(県立大)が初優勝!

## = 第9回熊本県学生剣道選手権大会 =



戦し渡邊が制覇、女子は東千晶(県立大)が平野美紗紀(熊大)を破りそれぞれ初優勝を飾った。

【優勝者の声】

熊本学園大 渡邊泰平



【感謝を忘れず!】

熊本県立大 東 千晶

本大会は6月11日熊本大学体育館に県内5大学の学生男子81名、女子25名が集い、予選トーナメントと決勝トーナメント戦で覇を競った。

例年、試合は時間内に勝敗が決しない場合は、抽選で行なわれていたが、今年は勝負が決するまで延長戦を行ったため、緊迫感のある好試合が随所に展開された。

決勝トーナメントは予選を勝ち上がった、男子10名と女子6名により行われた。男子決勝戦は渡邊泰平(学園大)と角 正俊(熊大)が対

今回優勝することができ嬉しく思います。私は剣道をする上で、基本を大切にすることを心がけています。それは様々な試合を見て強い人、試合に勝つ人ほど、基本打ちがしっかりしている事に気付いたからです。

また、日常生活での挨拶や稽古の中でも基本を意識し、しっかりと打つようになっています。稽古中は受け手の時も相手からのタイミングで打突するかを考えて気を抜かないようにしています。

今年が大学最後の年ですので、大学生活も剣道の稽古も全うし精進してまいります。

# 山鹿市剣連が2連覇!

## 第5回菊池の郷シニア剣道交流大会



と想っています。」と元気に語っておられる。

本大会のますますの発展を期待するものである。

標記大会は今年秋の全国ねりんピック熊本のリハサル大会に引き続き2連覇を飾った。

本大会はシニアの健康増進と伝統文化剣道の伝承を兼ね、交剣知愛のもと、剣道を楽しもうという趣旨で始まり、今回5回目を迎えている。

各方面のご理解とご支援を頂き参加チームも年々増加する傾向にあり好ましい限りである。

10月の全国ねりんピック熊本大会には本県は3チーム参加予定であり健闘を期待したい。

県外からの8チームを含め22チームが参加し、予選リーグと決勝トーナメント戦を繰り広げた。各チームの実力が伯仲する中、勝敗のほとんどが僅差での決着であった。

決勝トーナメントには、本県が8チーム中、7チームが勝ち上がり決勝戦は山鹿市剣連と玉名市剣連との戦いとなった。

手に汗握る白熱戦の末、1対1の引き分け、最初に引き分けた選手による代表決定戦となった。

息詰まる攻防の末、山鹿市の池田選手

# 前期称号・昇段者

- 平成二十三年年度
- 剣道範士 (京都) 5月6日 倉田雅弘 37
  - 尾方 正照(66) 牛島 章(61)
  - 剣道教士 (京都) 5月6日 〇剣道六段 (京都) 4月30日
  - 岡田 康二(48) 船川 英樹(42)
  - 剣道七段 (京都) 4月29日 奥村 隆雄(53)
  - 井上 淳一(39) 藤田 徹(38)
  - 久保 郁夫(43) 三森 康弘(40)
  - 津留 栄二(44) 村上 公浩(46)
  - 成田 禎(50) 古賀 美和(47)
  - (名古屋) 5月14日 後藤 達也(55)
  - 原川 博光(41) 中原 英(37)
  - 剣道錬士

# 編集後記

先ず、東日本大震災で被災された皆様からご冥福とお見舞いを申し上げ、二日も早い復興をお祈りいたします。

作家の曾野綾子さんは「地震が眠りこけていた日本人の怠惰で甘やかされた精神を揺り動かしてくれば、多くの死者たちの霊も慰められるかと思う」とコメントされています。

しかし、被災地で困難な状況の中で天を呪わず、他を思いやり助け合う姿が見られ、多くの外国人の人たちがこのような日本人の姿に感嘆と賞讃の声を上げています。この事実からも古来より祖先が大事にしてきた日本の伝統精神が生きている証がくみ取れます。

さて、今年度は役員改選がありました。泉 勝壽新会長のもと新スタッフで加盟団体との更なる意思疎通を図る組織づくりを目指して船出しました。

新年度の諸行事も着々と進む中、尾方正照理事長の「剣道範士」称号の受給、亀井範士の八段選抜大会準優勝など明るい話題と共に各種大会も活気に満ちております。

また、田原範士から頂いた熊本女子剣道への賛辞に意を強くしました。更に、北熊本自衛隊の全国6連覇にも敬意を表します。

今回も多くの皆様から玉稿を賜り感謝申し上げます。今後ともご指導を賜りながら、より親しめる広報づくりを目指して参ります。

(菊池弘徳)

# 県剣道連盟新役員

- 会長 泉 勝壽
- 副会長 由布雅夫・前田泰良・森 重行
- 理事長 尾方正照
- 常任理事 眞田陽一・紫垣正刀・益田大輔・三嶋久美
- 森田精一・立場正満・吉田充弘・宮上義広
- 監事 稲葉英光・川口弘幸
- 事務局長 岡田総一郎、主査 園田美幸